

# 平成 28 年度大学院博士課程前期課程入試問題

心理発達科学専攻

試験科目	英語
------	----

( 7 枚中 その 1 )

平成27年9月24日

9時00分～10時30分

受験番号		氏名	
------	--	----	--

*整理番号	
-------	--

心理発達科学専攻

試験科目	英語
------	----

( 7 枚中 その 1 )

*整理番号	
-------	--

\*印欄は受験生記入不要

以下の英語論文を読み、問いに答えなさい。

[出典 : Li, T. & Zhao, Y. (2012). Help less or help more –Perceived intergroup threat and out-group helping. *International Journal of Psychological Studies*, 4(4), 90-98. ただし、内容を一部 (特に Study 2 の部分) 省略している]

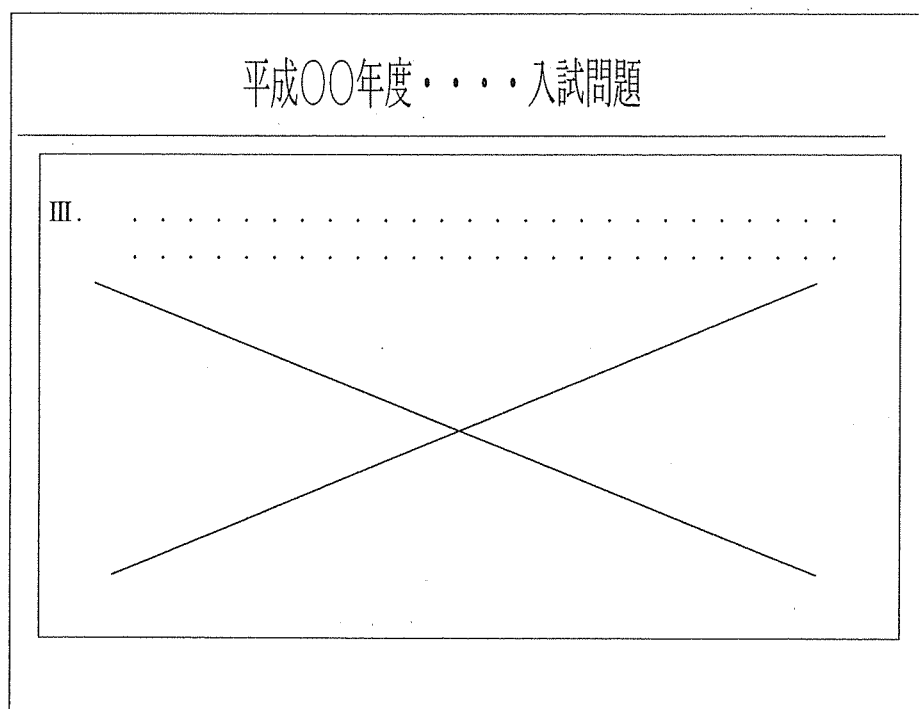
その2からその5は省略





以下の文をよく読んでから  
解答に着手すること

1. 問題は I ～ V までの 5 問である。
2. 心理社会行動科学講座（高度専門職業人養成コースの場合は、心理行動科学分野）を受験する者は、I・II・IIIの3問と、IVもしくはVのうちいずれか1問を選択し、合計4問を解答すること。
3. 精神発達臨床科学講座（高度専門職業人養成コースの場合は、心理臨床科学分野）を受験する者は、IV・Vの2問と、I・II・IIIのうちから2問を選択し、合計4問を解答すること。
4. 選択しなかった問題については、下の例のように、大きく×印をつけること。



5. 5問すべての問題に解答したり、選択しなかった問題が不明確な場合は、すべての解答を無効とするので、十分注意すること。
6. 解答は、枠内にのみ記すこと。枠外や、裏面に書いても、採点の対象にはならない。
7. 解答は、指定がない場合は、必ず日本語で記すこと。

# 平成 28 年度大学院博士課程前期課程入試問題

心理発達科学専攻

試験科目	心理発達科学
------	--------

( 6枚中 その1 )

平成27年9月24日

11時00分～13時00分

受験番号		氏名	
------	--	----	--

*整理番号	
-------	--

試験科目	心理発達科学
------	--------

( 6枚中 その1 )

心理発達科学専攻	
*整理番号	

\*印欄は受験生記入不要

I. 動機づけ研究における主要な概念に「自己効力感 (セルフ・エフィカシー)」と「内発的動機づけ」がある。これらについて、以下の問いに答えなさい。

問1 2つの用語をそれぞれ簡潔に説明しなさい。

(1) 自己効力感 (セルフ・エフィカシー)

(2) 内発的動機づけ

問2 「自己効力感」と「内発的動機づけ」は、同じく人間の動機づけと行動を説明する概念であるが、異なる理論的背景をもっている。どのような点が違っているのだろうか、実践への応用も含めて、わかりやすく論じなさい。

# 平成 28 年度大学院博士課程前期課程入試問題

心理発達科学 専攻

試験科目	心理発達科学
------	--------

( 6枚中 その2 )

平成27年9月24日

11時00分～13時00分

受験番号		氏名	
------	--	----	--

*整理番号	
-------	--

心理発達科学 専攻

試験科目	心理発達科学
------	--------

( 6枚中 その2 )

*整理番号	
-------	--

\*印欄は受験生記入不要

## II. 次の問いに答えなさい。

問1 以下の用語について簡潔に説明しなさい。

(1) 作業記憶

(2) アンダーマイニング効果

(3) メタ認知

問2 心理学における様々な立場から「学習」を捉えることができる。行動主義、認知主義、状況主義では、それぞれ「学習」をどのように捉えているか、各々の違いが明確となるように説明しなさい。

# 平成 28 年度大学院博士課程前期課程入試問題

心理発達科学 専攻

試験科目	心理発達科学
------	--------

( 6枚中 その3 )

平成27年9月24日

11時00分～13時00分

受験番号		氏名	
------	--	----	--

*整理番号	
-------	--

心理発達科学 専攻

試験科目	心理発達科学
------	--------

( 6枚中 その3 )

*整理番号	
-------	--

\*印欄は受験生記入不要

III. 次の2つの問いに答えなさい。

問1 1要因3水準の分散分析に替えて、t検定を3回繰り返してはいけない、と統計的方法の教科書に書かれているが、  
(1) これは具体的にどういうことを言っているのか例をあげて答えなさい。例は架空の研究(調査)でかまわない。

(2) なぜ「いけない」のか、説明しなさい。

問2 測定の妥当性に関して、「3つの相互に重なりを持つが種類の異なる妥当性を想定する」という考え方から、最近では「妥当性は単一の概念であり、それを確認するやり方の違いを反映して妥当性の呼び方が異なっている」という考え方に変わってきている。このような妥当性の捉え方の変化について説明しなさい。  
その際、構成概念妥当性、基準関連妥当性、内容的妥当性、単一性の概念 (unitary concept)、に言及すること。



# 平成 28 年度大学院博士課程前期課程入試問題

心理発達科学 専攻

試験科目	心理発達科学
------	--------

( 6枚中 その4 )

平成27年9月24日

11時00分～13時00分

受験番号		氏名	
------	--	----	--

*整理番号	
-------	--

心理発達科学 専攻

試験科目	心理発達科学
------	--------

( 6枚中 その4 )

*整理番号	
-------	--

\*印欄は受験生記入不要

IV. 子どもの心身の発達において、愛着対象との関係が重要視されている。下記の問いに答えなさい。

問1 愛着とは何か説明しなさい。

問2 虐待の世代間連鎖のメカニズムについて、内的ワーキングモデルの概念を用いて説明しなさい。

# 平成 28 年度大学院博士課程前期課程入試問題

心理発達科学専攻

試験科目	心理発達科学
------	--------

( 6枚中 その5 )

平成27年9月24日

11時00分～13時00分

受験番号		氏名	
------	--	----	--

*整理番号	
-------	--

試験科目	心理発達科学
------	--------

( 6枚中 その5 )

*整理番号	
-------	--

心理発達科学専攻

\*印欄は受験生記入不要

V. 次に示すのは、いじめ防止対策推進法の第11条第1項の規定に基づき、文部科学大臣によって策定された「いじめの防止等のための基本的な方針」(平成25年11月)の一部である。これを読んで後の問いに答えなさい。  
(次ページに続く)

## (4) 学校におけるいじめの防止等に関する措置

学校の設置者及び学校は、連携して、いじめの防止や早期発見、いじめが発生した際の対処等に当たる。

### 1) いじめの防止

いじめはどの子供にも起こりうるという事実を踏まえ、全ての児童生徒を対象に、いじめに向かわせないための未然防止に取り組む。

また、未然防止の基本は、児童生徒が、心の通じ合うコミュニケーション能力を育み、規律正しい態度で授業や行事に主体的に参加・活躍できるような授業づくりや集団づくりを行う。

加えて、集団の一員としての自覚や自信を育むことにより、いたずらにストレスにとらわれることなく、互いを認め合える人間関係・学校風土をつくる。

さらに、教職員の言動が、児童生徒を傷つけたり、他の児童生徒によるいじめを助長したりすることのないよう、指導の在り方に細心の注意を払う。

### 2) 早期発見

いじめは大人の目に付きにくい時間や場所で行われたり、遊びやふざけあいを装って行われたりするなど、大人が気づきにくく判断しにくい形で行われることが多いことを教職員は認識し、ささいな兆候であっても、いじめではないかとの疑いを持って、早い段階からの的確に関わりを持ち、いじめを隠したり軽視したりすることなく、いじめを積極的に認知することが必要である。

このため、日頃から児童生徒の見守りや信頼関係の構築等に努め、児童生徒が示す変化や危険信号を見逃さないようアンテナを高く保つ。あわせて、学校は定期的なアンケート調査や教育相談の実施等により、児童生徒がいじめを訴えやすい体制を整え、いじめの実態把握に取り組む。

### 3) いじめに対する措置

いじめの発見・通報を受けた場合には、特定の教職員で抱え込まず、速やかに組織的に対応し、被害児童生徒を守り通すとともに、加害児童生徒に対しては、当該児童生徒の人格の成長を旨として、教育的配慮の下、毅然とした態度で指導する。これらの対応について、教職員全員の共通理解、保護者の協力、関係機関・専門機関との連携の下で取り組む。

出典：[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/seitoshidou/1340774.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1340774.htm)

問1 (1) いじめの防止段階、(2) 早期発見段階、(3) いじめに対する措置段階のそれぞれにおいて、学校における心理臨床の専門家としてのスクールカウンセラーが果たし得る/果たすべき役割(活動)を具体的に挙げなさい。

(次ページに続く。問2、問3は、6枚中その6にあるので注意すること)

# 平成 28 年度大学院博士課程前期課程入試問題

心理発達科学 専攻

試験科目	心理発達科学
------	--------

( 6枚中 その6 )

平成27年9月24日

11時00分～13時00分

受験番号		氏名	
------	--	----	--

*整理番号	
-------	--

心理発達科学 専攻

試験科目	心理発達科学
------	--------

( 6枚中 その6 )

*整理番号	
-------	--

\*印欄は受験生記入不要

問2 問1で述べた各段階におけるスクールカウンセラーの役割(活動)のそれぞれは、臨床心理士の4つの専門業務のいずれに当たるかを述べなさい。

問3 問1で述べた各段階におけるスクールカウンセラーの役割(活動)を、新しい予防概念の中に位置づけて説明しなさい。